

千葉県RDB植物2004；最重要保護植物種の生育環境と絶滅危惧になった原因(1)

			最重要保護植物種	生育環境	絶滅危惧種になった原因	
13	シダ植物	13	マツバラ科	マツバラ	岩上着生	周辺植生の伐採
14	シダ植物	15	ハナヤスリ科	トネハナヤスリ	草原・河原	河川改修
15	シダ植物	14	ハナヤスリ科	シチウハナワラビ	照葉樹林	稀
16	シダ植物	16	コケシノブ科	キヨシミコケシノブ	岩上着生	周辺植生の伐採
17	シダ植物	17	コケシノブ科	ホソバコケシノブ	岩上着生	周辺植生の伐採
18	シダ植物	18	イノモトソウ科	コバノイシカグマ	スギ林	稀
19	シダ植物	19	イノモトソウ科	カラクサシダ	岩上着生	稀、周辺植生の伐採
20	シダ植物	20	オシダ科	ミドリカナワラビ	スギ林	稀、遷移
21	シダ植物	22	オシダ科	タニヌワラビ	スギ林	稀
22	シダ植物	21	オシダ科	サトメシダ	落葉樹林	稀
23	シダ植物	23	オシダ科	ミゾシダモドキ	岩上着生	稀 周辺植生の伐採
24	シダ植物	24	オシダ科	ミドリワラビ	スギ林	稀
25	シダ植物	25	オシダ科	ミヤマノギリシダ	スギ林	稀
26	シダ植物	26	オシダ科	ワカナシダ	落葉樹林	稀
27	シダ植物	27	オシダ科	ジタロウイノデ	スギ林	稀 雑種
28	シダ植物	28	ウラボシ科	ヤノネシダ	岩上着生	稀
29	シダ植物	29	ウラボシ科	イワヤナギシダ	岩上着生	稀 周辺植生の伐採
30	シダ植物	30	ウラボシ科	ヌカボシクリハラシ	岩上着生	稀 周辺植生の伐採
31	シダ植物	31	ウラボシ科	イワオモダカ	岩上着生	稀 採集区
32	シダ植物	32	シシラン科	タキミシダ	岩上着生	稀 周辺植生の伐採
174	種子植物	66	マツ科	ゴヨウマツ	岩上着生	周辺植生の伐採 採集区
175	種子植物	67	ブナ科	イヌブナ	落葉樹林	稀
176	種子植物	68	ニレ科	ハルニレ	落葉樹林	稀
177	種子植物	69	ナデシコ科	ヒナワチガイソウ	落葉樹林	稀
178	種子植物	70	ナデシコ科	イトハコベ	湿地	河川改修
179	種子植物	71	キンボウゲ科	フクジュソウ	落葉樹林	遷移 採集区
180	種子植物	72	キンボウゲ科	トウゴクサバナオ	落葉樹林	稀 遷移
181	種子植物	73	キンボウゲ科	オキナグサ	草原・河原	遷移 開発
182	種子植物	74	キンボウゲ科	コキツネノボタン	湿地	河川改修
183	種子植物	75	スイレン科	ジュンサイ	池沼	水質悪化
184	種子植物	76	スイレン科	オニバス	池沼	水質悪化
185	種子植物	77	スイレン科	ナガバコウホネ	池沼	稀 護岸工事
186	種子植物	78	スイレン科	ヒツジグサ	池沼	稀 水質悪化
187	種子植物	79	ウマノスズクサ科	ゼニバサイシン	落葉樹林	稀
188	種子植物	80	モウセンゴケ科	ナガバノイシモチソウ	湿地	遷移 開発
189	種子植物	81	モウセンゴケ科	イシモチソウ	湿地	遷移 開発
190	種子植物	82	ベンケイソウ科	ミツバベンケイソウ	岩隙	稀
191	種子植物	83	ベンケイソウ科	ツメレンゲ	岩隙	稀
192	種子植物	84	アマ科	マツバニンジン	草原・河原	遷移 開発
193	種子植物	85	スミレ科	マキノスミレ	落葉樹林	稀
194	種子植物	86	ヒシ科	ヒメビシ	池沼	水質悪化
195	種子植物	87	セリ科	エキサイゼリ	河原	稀 護岸工事
196	種子植物	88	セリ科	シムランニンジン	河原	稀 護岸工事
197	種子植物	89	イチヤクソウ科	マルバイイチヤクソウ	照葉樹林	稀
198	種子植物	90	ツツジ科	ヒカゲツツジ	岩隙	周辺植生の伐採 採集区
199	種子植物	91	ツツジ科	バイカツツジ	落葉樹林	稀
200	種子植物	92	リンドウ科	イヌセンブリ	湿地	遷移
201	種子植物	93	リンドウ科	ムラサキセンブリ	草原・河原	稀 遷移
202	種子植物	94	ムラサキ科	サワリソウ	照葉樹林	稀
203	種子植物	95	シソ科	シラゲヒメジソ	落葉樹林	稀
204	種子植物	96	ナス科	ヤマホオズキ	落葉樹林	稀
205	種子植物	97	ゴマノハグサ科	オオアブメ	湿地・水田	圃場整備
206	種子植物	98	ハマウツボ科	ハマウツボ	海岸	開発
207	種子植物	99	ハマウツボ科	キヨスミウツボ	落葉樹林	稀
208	種子植物	100	マツムシソウ科	マツムシソウ	草原	遷移 開発

千葉県RDB植物2004；最重要保護植物種の生育環境と絶滅危惧になった原因（2）

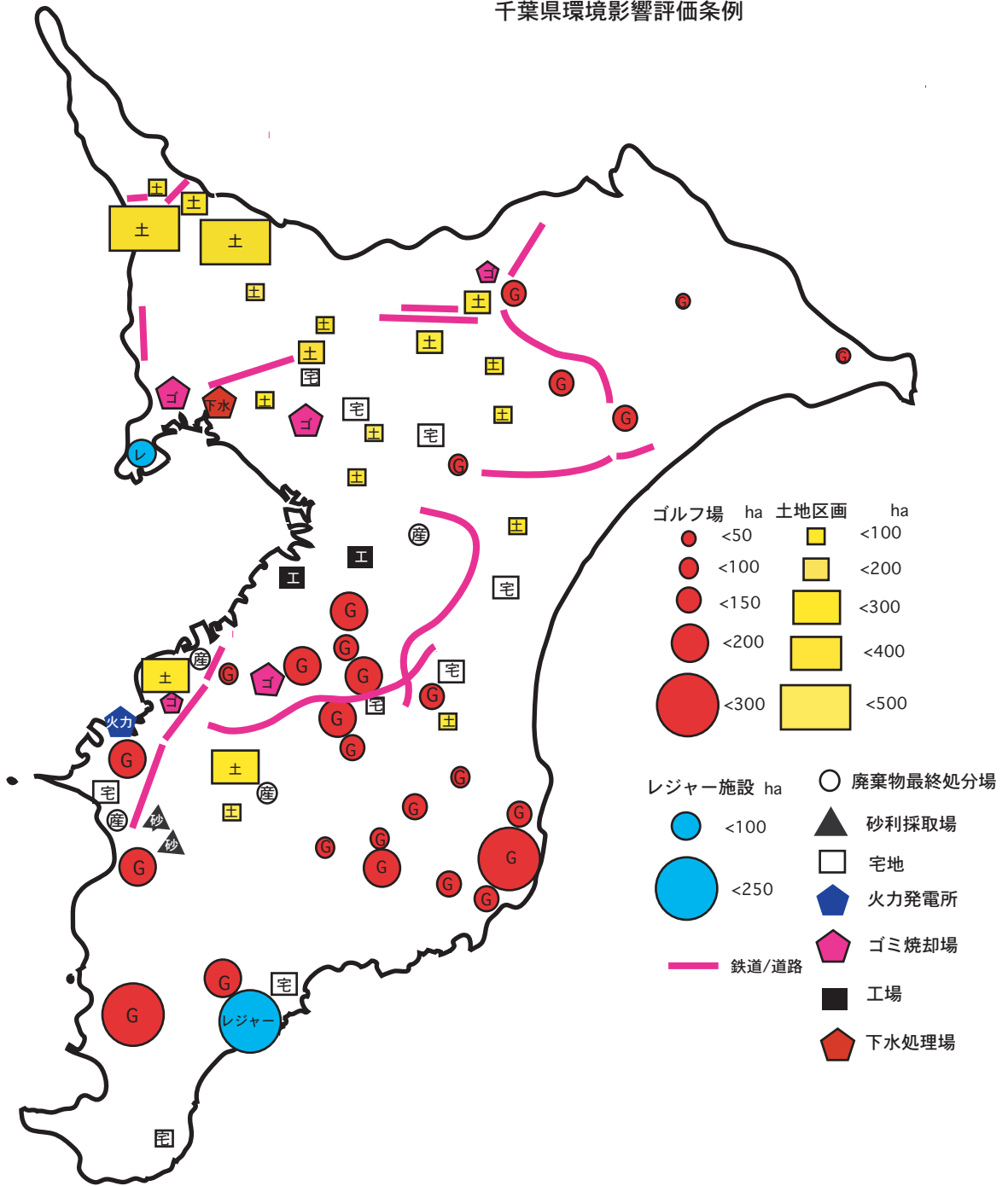
209	種子植物	101	マツムシソウ科	ソナレマツムシソウ	海岸	稀、海岸線の開発
210	種子植物	102	キキョウ科	ソバナ	草原	稀
211	種子植物	103	キキョウ科	マルバノハマシャジン	海岸	稀、海岸線の開発
212	種子植物	104	キキョウ科	ツルギキョウ	照葉樹林	稀
213	種子植物	105	キキョウ科	キキョウ	草原	遷移、開発
214	種子植物	106	キク科	モリアザミ	草原	稀
215	種子植物	107	キク科	イズハハコ	岩隙	稀
216	種子植物	108	キク科	アズマギク	草原	遷移、開発
217	種子植物	109	キク科	フジバカマ	川岸	河川改修
218	種子植物	110	キク科	ハマサワヒヨドリ	海岸	稀、海岸線の開発
219	種子植物	111	キク科	オタカラコウ	草原	稀、遷移
220	種子植物	112	トチカガミ科	ウミヒルモ	海浜（海中）	稀
221	種子植物	113	ホロムイソウ科	シバナ	塩湿地	海岸線の開発
222	種子植物	114	ヒルムシロ科	ツツイトモ	池沼	水質悪化
223	種子植物	115	ヒルムシロ科	タチアママ	海浜（海中）	稀
224	種子植物	116	イバラモ科	イバラモ	池沼	稀、水質悪化
225	種子植物	117	ホンゴウソウ科	ホンゴウソウ	照葉樹林	周辺植生の伐採、稀
226	種子植物	118	ユリ科	ヒメアマナ	落葉樹林	稀、遷移
227	種子植物	119	ユリ科	ヒメズイ	海岸	海岸線の開発
228	種子植物	120	ヒガンバナ科	ハマオモト	海岸	海岸線の開発、採集区
229	種子植物	121	アヤメ科	カキツバタ	湿地	遷移、開発
230	種子植物	122	ヒナノシャクジョウ科	ヒナノシャクジョウ	落葉樹林	周辺植生の伐採、稀
231	種子植物	123	イネ科	ヒゲシバ	湿地	遷移、開発
232	種子植物	124	サトイモ科	マイヅルテンナンショウ	草原	河川改修、遷移
233	種子植物	125	ミクリ科	オオミクリ	湿地	開発、水質悪化
234	種子植物	126	ミクリ科	ヤマトミクリ	湿地	稀
235	種子植物	127	ミクリ科	ナガエミクリ	湿地	稀
236	種子植物	128	ミクリ科	ヒメミクリ	湿地	開発、水質悪化
237	種子植物	129	カヤツリグサ科	ムジナスゲ	草原	河川改修、稀
238	種子植物	130	カヤツリグサ科	カタスゲ	海岸	開発、稀
239	種子植物	131	カヤツリグサ科	ヌマクロボスゲ	湿地	遷移、稀
240	種子植物	132	カヤツリグサ科	エソツリスゲ	湿地	遷移、稀
241	種子植物	133	カヤツリグサ科	イッスンテンツキ	湿地	稀
242	種子植物	134	カヤツリグサ科	ハタケテンツキ	草原	稀
243	種子植物	135	カヤツリグサ科	コイヌノハナヒゲ	湿地	遷移、開発
244	種子植物	136	カヤツリグサ科	シズイ	湿地	開発、稀
245	種子植物	137	カヤツリグサ科	ミカワシンジュガヤ	湿地	遷移、開発
246	種子植物	138	ラン科	マメツタラン	樹上着生	周辺植生の伐採 採集区
247	種子植物	139	ラン科	ムギラン	樹上着生	周辺植生の伐採 採集区
248	種子植物	140	ラン科	コアツモリソウ	落葉樹林	周辺植生の伐採 採集区
249	種子植物	141	ラン科	セッコク	樹上着生	周辺植生の伐採 採集区
250	種子植物	142	ラン科	ハマカキラン	海岸	遷移 採集区
251	種子植物	143	ラン科	ナヨテンマ	スギ林	周辺植生の伐採、稀
252	種子植物	144	ラン科	ハチジョウシュスラン	照葉樹林	稀
253	種子植物	145	ラン科	ベニシュスラン	照葉樹林	周辺植生の伐採 採集区
254	種子植物	146	ラン科	ダイサギソウ	草原	遷移
255	種子植物	147	ラン科	ムカゴトンボ	湿地	遷移、稀
256	種子植物	148	ラン科	サギソウ	湿地	湿地の埋立て、採集区
257	種子植物	149	ラン科	ムカゴソウ	湿地	湿地の埋立て、採集区
258	種子植物	150	ラン科	カゲロウラン	照葉樹林	稀
259	種子植物	151	ラン科	ヒメノヤガラ	スギ林	周辺植生の伐採、稀
260	種子植物	152	ラン科	ヒメフタバラン	照葉樹林	周辺植生の伐採、稀
261	種子植物	153	ラン科	フウラン	樹上着生	周辺植生の伐採 採集区
262	種子植物	154	ラン科	アワチドリ	岩隙	採集区
263	種子植物	155	ラン科	クモラン	樹上着生	伐採
264	種子植物	156	ラン科	オオハクウンラン	照葉樹林	周辺植生の伐採、稀

千葉県RDB植物2004；最重要保護植物種の生育環境と絶滅危惧になった原因(3)

779	蘚苔類	6	ミズゴケ科	コアナミズゴケ	湿地	茅場の管理放棄
780	蘚苔類	7	センボンゴケ科	ダンダンゴケ	岩隙	開発
781	蘚苔類	8	オオツボゴケ科	フガゴケ	岩隙	開発
782	蘚苔類	9	ハリガケゴケ科	オオカサゴケ	落葉樹林	周辺植生の伐採
783	蘚苔類	10	コウヤノマンネングサ科	フロウソウ	マツ林	周辺植生の伐採
784	蘚苔類	11	イタチゴケ科	リスゴケ	マツ林	周辺植生の伐採 採集区
785	蘚苔類	12	ハイヒモゴケ科	ミズスギモドキ	照葉樹林	周辺植生の伐採
786	蘚苔類	13	ハイヒモゴケ科	ソリシダレゴケ	照葉樹林	周辺植生の伐採
787	蘚苔類	14	ハイヒモゴケ科	コハイヒモゴケ	照葉樹林	周辺植生の伐採
788	蘚苔類	15	ヒラゴケ科	モロハヒラゴケ	照葉樹林	周辺植生の伐採
789	蘚苔類	16	ヒラゴケ科	トサヒラゴケ	照葉樹林	周辺植生の伐採・乾燥
790	蘚苔類	17	シノブゴケ科	オオアオシノブゴケ	照葉樹林	周辺植生の伐採
791	蘚苔類	18	ハイゴケ科	オオカギイトゴケ	湿地	湿地の埋立て・乾燥
792	蘚苔類	19	ハイゴケ科	コウライイチイゴケ	湿地	湿地の埋立て・乾燥
793	蘚苔類	20	ツキヌキゴケ科	アサカワホラゴケモドキ	照葉樹林	稀、周辺植生の伐採
794	蘚苔類	21	ツボミゴケ科	ハネツボミゴケ	岩隙/照葉樹林	周辺植生の伐採・乾燥
795	蘚苔類	22	チチブイチョウゴケ科	モグリゴケ	湿地	湿地の埋立て・乾燥
796	蘚苔類	23	クサリゴケ科	ヨウジョウゴケ	照葉樹林	周辺植生の伐採・乾燥
797	蘚苔類	24	クサリゴケ科	カビゴケ	照葉樹林	周辺植生の伐採・乾燥
798	蘚苔類	25	クサリゴケ科	モウリッシュシゲリゴケ	照葉樹林	周辺植生の伐採・乾燥
799	蘚苔類	26	コマチゴケ科	コマチゴケ	照葉樹林	周辺植生の伐採・乾燥
800	蘚苔類	27	ヤワラゼニゴケ科	ヤワラゼニゴケ	草原・河原	開発・河川改修
842	藻類	2	シャジクモ科	アレンフラスコモ	池沼	水質悪化・埋立て
843	藻類	3	シャジクモ科	イノカシラフラスコモ	池沼	水質悪化・埋立て
844	藻類	4	シャジクモ科	オオシャジクモ	池沼	水質悪化・埋立て
845	藻類	5	シャジクモ科	オトメフラスコモ	池沼	水質悪化・埋立て
846	藻類	6	シャジクモ科	カタシャジクモ	池沼	水質悪化・埋立て
847	藻類	7	シャジクモ科	ケナガシャジクモ	池沼	水質悪化・埋立て
848	藻類	8	シャジクモ科	チャボフラスコモ	池沼	水質悪化・埋立て
849	藻類	9	シャジクモ科	ナガホノフラスコモ	池沼	水質悪化・埋立て
850	藻類	10	シャジクモ科	ハダシシャジクモ	池沼	水質悪化・埋立て
851	藻類	11	シャジクモ科	ハデフラスコモ	池沼	水質悪化・埋立て
852	藻類	12	シャジクモ科	ヒメカタシャジクモ	池沼	水質悪化・埋立て
853	藻類	13	シャジクモ科	ヒメフラスコモ	池沼	水質悪化・埋立て
854	藻類	14	シャジクモ科	ホシツリモ	池沼	水質悪化・埋立て
855	藻類	15	シャジクモ科	ホンフサフラスコモ	池沼	水質悪化・埋立て
856	藻類	16	ベニマダラ科	タンスイベニマダラ	岩隙/溪流河岸	周辺植生の伐採・乾燥
857	藻類	17	リトデルマ科	イズミシノカワ	岩隙/溪流河岸	周辺植生の伐採・乾燥
858	藻類	18	オオイシソウ科	アツカワオオイシソウ	河川/用水路	水質悪化
859	藻類	19	オオイシソウ科	インドオオイシソウ	河川/用水路	水質悪化
860	藻類	20	オオイシソウ科	ムカゴオオイシソウ	河川/用水路	水質悪化
879	地衣類	13	ウメノキゴケ科	タナカウメノキゴケ	樹皮着生/落葉樹林	周辺植生の伐採
880	地衣類	14	ウメノキゴケ科	フクレセンゴケ	樹皮着生/照葉樹林	周辺植生の伐採
881	地衣類	15	ウメノキゴケ科	ヒモウメノキゴケ	樹皮着生/落葉樹林	周辺植生の伐採
882	地衣類	16	ウメノキゴケ科	トゲサルオガセ	樹皮着生/落葉樹林	大気汚染
883	地衣類	17	ウメノキゴケ科	アサヒナサルオガセ	樹皮着生/針葉樹	大気汚染
884	地衣類	18	ウメノキゴケ科	トゲワタゲサルオガセ	樹皮着生	大気汚染
885	地衣類	19	ウメノキゴケ科	ホンダサルオガセ	樹皮着生	大気汚染
886	地衣類	20	ムカデゴケ科	コバノゲジゲジゴケ	岩隙/樹皮	周辺植生の伐採
887	地衣類	21	カプトゴケ科	キンブチゴケ	樹皮着生	周辺植生の伐採・大気汚染
888	地衣類	22	ワタヘリゴケ科	ワタヘリゴケ	照葉樹林	周辺植生の伐採・乾燥
889	地衣類	23	ツメゴケ科	イヌツメゴケ	落葉樹林	周辺植生の伐採・乾燥
907	菌類	1	キシメジ科	アミヒカリタケ	照葉樹林	稀・不明
908	菌類	2	キシメジ科	ヤコウタケ	照葉樹林	稀・不明
909	菌類	3	テングタケ科	チャオニテングタケ	照葉樹林	稀・不明

環境アセスメント対象事業 千葉県内分布図 (廃止事業は含まない)

千葉県環境影響評価の実施に関する指導要綱
 環境影響評価閣議決定要綱
 環境影響評価法
 千葉県環境影響評価条例



土地

	経営耕地総面積(ha)			借入耕地面積(ha)		
	計	販売農家	自給的農家	計	販売農家	自給的農家
昭和25年	173,021
30年	169,002
35年	172,907
40年	168,101	12,497
45年	159,888	11,514
50年	139,572	7,303
55年	133,987	6,301
60年	125,966	122,556	3,410	7,975	7,810	165
平成2年	118,150	114,834	3,316	10,684	10,533	151
7年	109,467	106,427	3,040	12,812	12,686	126
12年	99,967	96,942	3,025	16,143	16,006	137
17年	93,194	89,815	3,379	19,791	19,668	123

	耕作放棄地(ha)							
	合計	農家計	販売農家	比率	自給的農家	比率	土地持ち非農家	比率
昭和25年
30年
35年
40年
45年
50年	3,570	2,428	1,142	32.0%
55年	3,010	2,244	766	25.4%
60年	3,178	2,173	1,762	55.4%	411	12.9%	1,005	31.6%
平成2年	7,986	6,370	5,240	65.6%	1,130	14.1%	1,616	20.2%
7年	9,162	6,962	5,587	61.0%	1,375	15.0%	2,200	24.0%
12年	14,861	9,556	7,623	51.3%	1,933	13.0%	5,305	35.7%
17年	17,057	9,608	6,822	40.0%	2,786	16.3%	7,449	43.7%

出典：千葉県総合企画部統計課（2006）2005年農林業センサス結果概要 農林業経営体調査

千葉県森林資源の現状とその管理状況

千葉県の森林面積

(単位：ha)

	総数	人工林	天然林	竹林・その他
国有林	7,755	5,240	2,210	305
民有林	154,628	57,708	74,999	21,921
総数	162,383	62,948	77,209	22,226

このうち民有の人工林は、スギ林、ヒノキ林、マツ林は、それぞれ

民有（人工林）	スギ林	ヒノキ林	マツ林	計
(単位：ha)	46,595	5,360	3,109	55,064

このうちそれぞれの林の間伐対象面積 III 齢級から IX 齢級
(15～45年)は、

間伐対象面積	スギ林	ヒノキ林	マツ林	計
(単位：ha)	22,430	3,757	506	26,693
	48%	70%	16%	48%

※ III 齢級から IX 齢級の35年間に1回の間伐を実施するとすれば年平均763ha、2回の間伐を実施するとすれば年平均1,525ha実施する必要がある。この状況を受けて、『千葉県間伐等推進計画』を策定し、間伐の推進に努めている。

民有林の間伐対象森林

区分	森林面積 (全体)	III 齢級	IV 齢級	V 齢級	VI 齢級	VII 齢級	VIII 齢級	IX 齢級	合計	割合
スギ	46,595	330	509	1,202	1,730	3,984	6,389	8,286	22,430	48%
ヒノキ	5,360	162	290	451	397	536	1,137	784	3,757	70%
マツ	3,109	5	7	5	11	36	130	312	506	16%
計	55,064	497	806	1,658	2,138	4,556	7,656	9,382	26,693	48%

※平成17年3月現在

千葉県農林水産部みどり推進課資料より作成

千葉県における外来生物

分類群	特定外来生物	その他の外来生物	備考
哺乳類	アカゲザル、マスカラット、アライグマ、キョン	ハクビシン、イノシシ、イヌ、ネコ、クマネズミ、ドブネズミ等	
鳥類	—	アヒル、コジュケイ、ドバト等	
爬虫類	カミツキガメ	ミシシippアカミミガメ、ミナミイシガメ	カミツキガメは防除の実施あり。
両生類	ウシガエル	アフリカツメガエル、トノサマガエル、ヌマガエル	
魚類	チャネルキャットフィッシュ、カダヤシ、ブルーギル、コクチバス、オオクチバス、ストライプトバス	カムルチー、グッピー、ゲンゴロウブナ、ソウギョ、タイリクバラタナゴ、ハス等	
昆虫類	セイヨウオオマルハナバチ	アオマツムシ、アメリカシロヒトリ、イネミズゾウムシ等	
軟体動物	—	サカマキガイ、台湾シジミ、ミドリイガイ、ムラサキイガイ等	
節足動物	—	アメリカザリガニ、イッカククモガニ、チチュウカイミドリガニ、タテジマフジツボ等	
植物	オオキンケイギク、ミズヒマワリ、オオハンゴンソウ、オオカワヂシャ、ナガエツルノゲイトウ、アレチウリ、オオフサモ、ボタンウキクサ	セイタカアワダチソウ、ブタクサ、オオブタクサ、ヒメムカシヨモギ、オオマツヨイグサ、メマツヨイグサ、ネズミムギ、コバンソウ、ナガハグサ、カモガヤ等	ナガエツルノゲイトウは防除の実施あり。

※ 特定外来生物：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」に基づく特定外来生物。生息・生育の確認記録がある種を示した。

※ 国内移入種を含む。

※ 防除の実施は、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」に基づき、国から防除の確認又は認定を受けたものをさす。

アカゲザル

Macaca mulatta
霊長目 オナガザル科

対策の緊急度 ▶



◆インド、中国、東南アジアなどに生息。体重5~8kg、頭胴長47~64cm、尾長19~30cm。主に植物の実や葉を食べます。1産1子。

◆房総半島南部の観光施設から逃げ出して野生化したと考えられますが、詳しいことは不明です。1990年代中頃からの調査により、アカゲザルを主体とした約100頭の群れ（白浜群）が館山市と白浜町の境界付近に生息していることが明らかになりました。

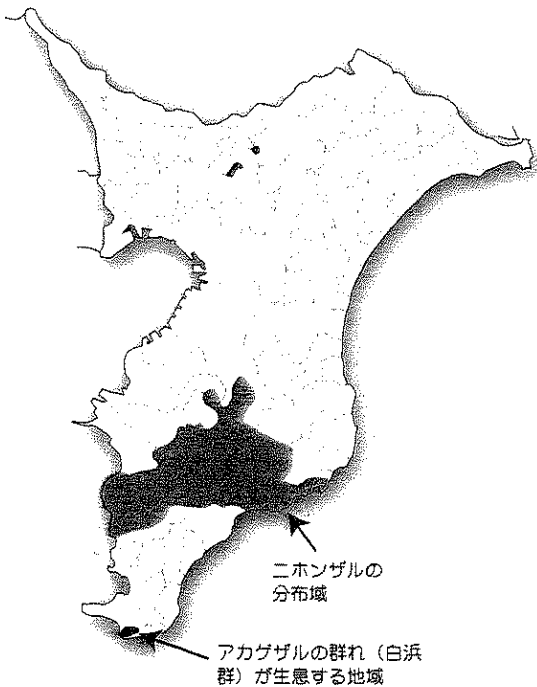
◆在来種のニホンザルとの間で交雑が生じる危険性が心配されています。同様の交雑問題は、ニホンザルとタイワンザルとの間で、青森県や和歌山県でも生じています。

◆ニホンザルとの交雑を防ぐため、千葉県は野生化したアカゲザルを全頭捕獲する方針を明らかにしています。2001年より、大型のオリで集団捕獲することが試みられていますが、群れ全体の捕獲には至っていません。



房総半島で野生化しているアカゲザル（白浜町） 撮影：池田文隆

ニホンザルより長い尾のはっきり見えます。

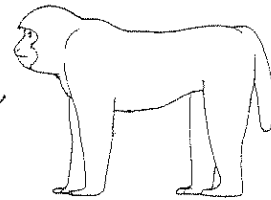


アカゲザルとニホンザルの千葉県での分布状況
房総丘陵を中心とした地域に4,000~5,000頭のニホンザルが生息しています。そこから約20km離れた房総半島の南端に、アカゲザル（たぶんニホンザルとの交雑個体を含む）の群れが生息しています。千葉県自然保護課・房総のサル管理調査会（1999・2000）より。

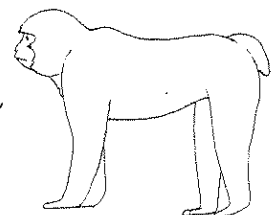
◆一般的に、異なる種同士の動物は、交雑して雑種の子どもを産むことはなく、また産んだとしても繁殖力のない子どもしか生まれないものです。しかし、近縁の種同士の場合は必ずしもそうではありません。ニホンザルとアカゲザルはどちらもマカク属に属する近縁種で、雑種の子どもをつくったり、その雑種の子どももまた普通に子どもを産むことができます。

◆ニホンザルもアカゲザルも、オスは生まれ育った群れを離れ、別の群れに入り込む習性をもっています。これまで、ニホンザルのオスが白浜群に入り込んだり、白浜群から出たと思われるアカゲザルのオスがニホンザルの分布域の中で捕獲されたりと、房総半島のニホンザルとアカゲザルの交雑の危険性は現実の問題となっています。

アカゲザル



ニホンザル



ニホンザルとアカゲザルは尾の長さが違います。ニホンザルは10cmほどの短い尾ですが、アカゲザルはその2~3倍の長い尾を持ちます。

ー〇コメント

もし、交雑が進んでしまえば、サルが何千頭いたとしても、房総半島のニホンザルは、何十万年にも及ぶ房総の自然の中での彼らの歴史とともに、絶滅することになります。

キョン

Muntiacus reevesi
偶蹄目 シカ科

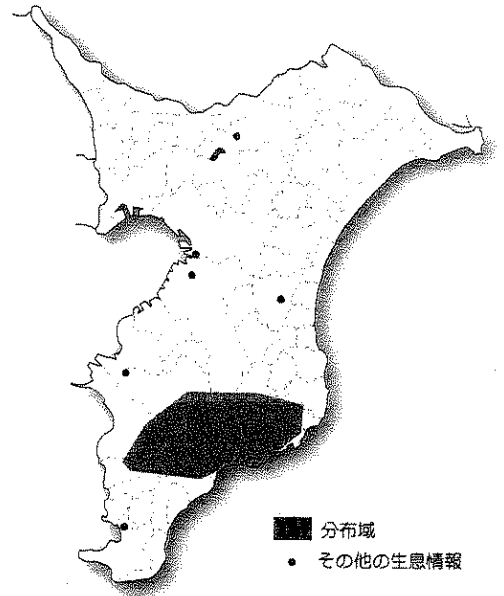
対策の緊急度 ▶ ★★

◆中国南東部と台湾に生息。体重 10kg前後、頭胴長 70cm程度で、千葉県にもとから生息するニホンジカ（平均体重：オス60kg、メス40kg）と比べてはるかに小型です。木の葉や実、草を食べます。1産1子で、特定の出産期はないようです。

◆千葉県の他、伊豆大島でも野生化しています。千葉県のキョンは、1960～1980年代の間に、勝浦市にあった観光施設から野生化したと考えられています。

◆イネなどに対する食害が生じています。在来の自然に対する影響としては、ニホンジカとの競合や、採食による自然植生への影響が予測されますが、詳しいことは分かっていません。ニホンジカと交雑することはありません。

◆千葉県では小規模な捕獲が行われているだけで、分布・生息数が拡大・増加中です。



キョンの千葉県での分布状況

房総丘陵を中心とした地域（面積507km²）に400頭ほどが生息しています。その他の地点で確認されたキョンの由来は不明です。千葉県環境生活部自然保護課・房総のシカ調査会（2002）より。



千葉県産のキョン（剥製）
千葉県立中央博物館所蔵
キョンは原始的なシカで、オスは大きな牙（矢印で示す）をもちます。



鴨川市で捕獲されたキョン



自動撮影カメラで撮影されたキョン（勝浦市）
撮影：大木淳一

◆千葉県では「千葉県イノシシ・キョン管理対策基本方針」（平成12年1月28日付け）が策定されています。この基本方針では、移入種（外来種）はその地域の自然における本来の構成員ではなく、在来の生態系を乱す存在であること、そのため新たな移入を生じさせないこと、また移入された場合には自然生態系への影響を重視し、基本的にはその地域から排除することが管理の目標とされています。

ーロコメト

キョンといえば1970年代の人気マンガに登場した「八丈島のきょんっ!!」を思い出す30～40代の人も多いと思います。でも、キョンは外国の動物で、もともと日本にいたわけではありません。

イノシシ

Sus scrofa
偶蹄目 イノシシ科

対策の緊急度 ▶ ★★★★★

◆北アフリカの一部からユーラシアに広く生息。日本では本州、四国、九州などに生息。体重50～150kg、頭胴長120～150cm。雑食性で、植物の根茎や堅果、ミミズなどを食べます。春～秋に2～8頭の子を産みます。

◆千葉県では古くから生息していて、昭和40年代まで捕獲されていました。しかし、1973～1985年の間は確実な生息情報がなく、絶滅したと考えられています。絶滅の原因は、過度の捕獲と、飼育ブタで流行した豚コレラのためと言われています。その後、狩猟目的のため、県外からもってきた飼育イノシシ・イノブタ（イノシシとブタの雑種）の幼獣が房総丘陵の各地で放され、再び生息するようになりました。

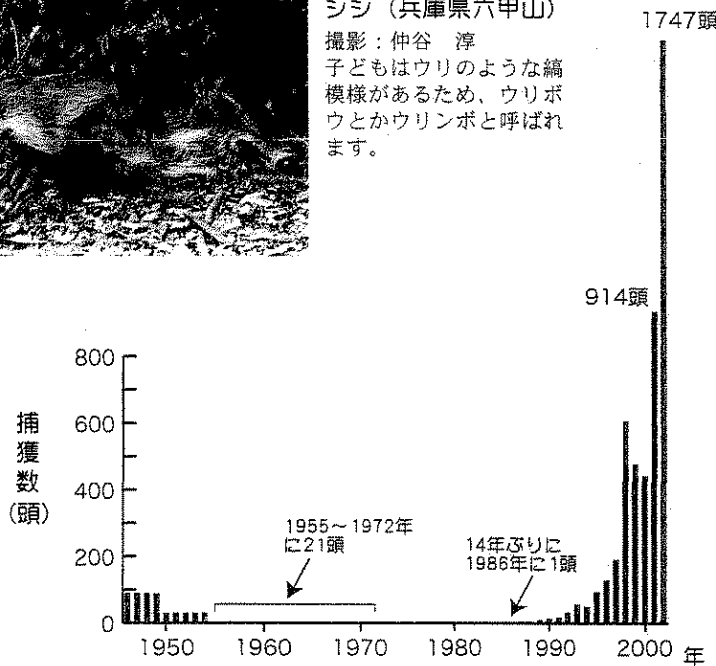
◆タケノコ、イネ、畑作物に対する食害が大きな問題になっています。千葉県では1990年代後半から毎年3,000～6,000万円前後の被害が報告されています。

◆被害防除のため電気柵が設置されています。千葉県では毎年、数百頭かそれ以上が捕獲されていますが、分布域や被害の拡大が進んでいます。

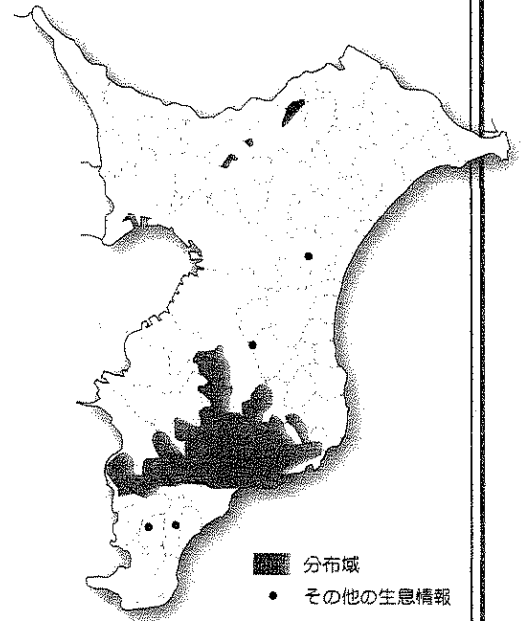


子に乳を与えるイノシシ（兵庫県六甲山）

撮影：仲谷 淳
子どもはウリのような縞模様があるため、ウリボウとかウリンボと呼ばれます。



千葉県におけるイノシシ（イノブタを含む）の捕獲頭数の推移 千葉県自然保護課の資料による。



イノシシ（イノブタを含む）の千葉県での分布状況

房総丘陵を中心とした地域（面積518km²）に生息しています。下総町・成田市などその他の地域でも、放逐や飼育個体の逃走によって新たな移入が生じています。千葉県環境生活部自然保護課・房総のシカ調査会（2002）より。

◆千葉県では「千葉県イノシシ・キョン管理対策基本方針」（平成12年1月28日付け）が策定されています。この基本方針では、現在のイノシシ個体群が放獣個体由来のものであると同時に、一度絶滅したという確証が得られていないことから在来個体群の遺伝子が一部残存している可能性も否定できないと考えています。そのため、当面の管理目標は移入個体群として完全に排除するのではなく、近年増加している農作物被害を効果的に軽減させていくこととしています。

ーロコメント
もともといた動物だから放していいという話ではありません。社会的合意も正確な記録もない放獣は、犯罪的行為です。

アライグマ

Procyon lotor
食肉目 アライグマ科

対策の緊急度 ▶ ★★★★★

◆北アメリカに生息。タヌキに似ていますが、尾に数本の黒い輪があります。体重4~10数kg、頭胴長41~60cm、尾長20~41cm。雑食性で、昆虫類、小型の脊椎動物、果実などを食べます。春に3~6頭の子を産みます。

◆日本では1977年に放映されたテレビアニメ「あらいぐまラスカル」の影響によってペットとして多数が飼育されました。しかし、手先が器用であることから逃亡したり、気性の荒さから飼い主が捨てる例が相次ぎ、日本の各地で野生化しています。千葉県でもペットの逃走・遺棄によって1990年代に移入・定着しました。

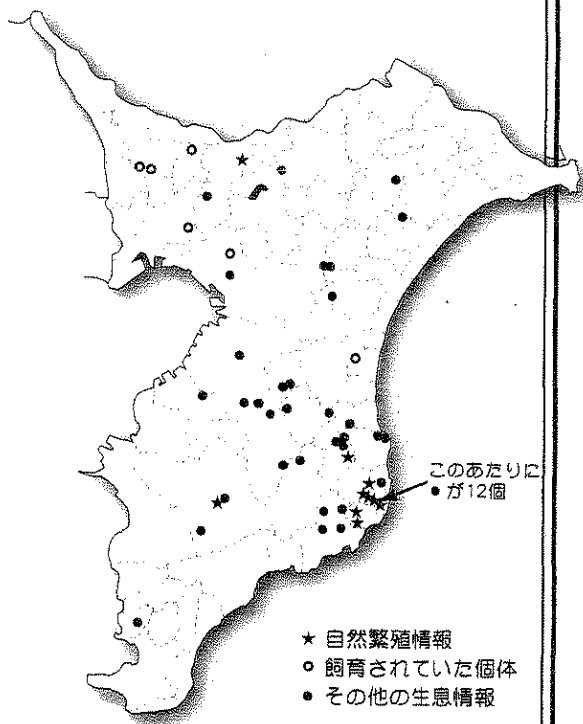
◆北海道ではトウモロコシ、スイカなどへの食害、神奈川県では住宅に侵入して天井を糞尿で汚すなどの生活被害が問題になっています。在来の自然に対する影響としては、フクロウの繁殖巣を占拠したり、集団営巣しているアオサギの卵やヒナを捕食して営巣放棄を引き起こした例が知られています。タヌキ、キツネ、アナグマ等の在来の中型雑食獣との競合も予測されます。

◆千葉県では小規模な捕獲が行われているだけで、分布・生息数が拡大・増加中です。



自動撮影カメラで撮影されたアライグマ (君津市) 撮影：鎌田貢司郎

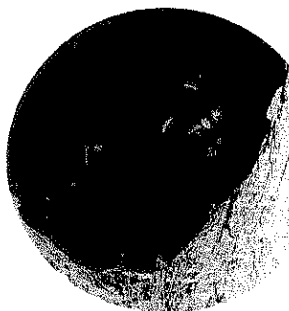
日本哺乳類学会が1998年に決議した「移入哺乳類への緊急対策に関する要望書」では、緊急対策を特に要する哺乳類として、小笠原諸島・尖閣諸島のヤギ、沖縄島・奄美大島のマングースに並んでアライグマが指定されています。



アライグマが自然繁殖した古い農家 (大原町) アライグマは人家や納屋の屋根裏に入り込んで子どもを産み、育てます。



人家の雨どいにぶらさがるアライグマ (大原町) 撮影：三上幸夫 このアライグマはこの家の屋根裏で生まれ育ったものです。



林中で自然繁殖したアライグマの子 (印西市) 撮影：押田正雄

前年までフクロウが繁殖に使っていた大木のうろ(樹洞)を占拠してしまいました。私たちが気がつかないうちに、在来の自然にさまざまな影響を与えていると考えられます。

アライグマの千葉県での分布状況

これまで夷隅地域(御宿町、大原町、夷隅町)、君津市、印西市の3地域で自然繁殖の事例が確認されています。落合ほか(2002)にその後の資料を追加。

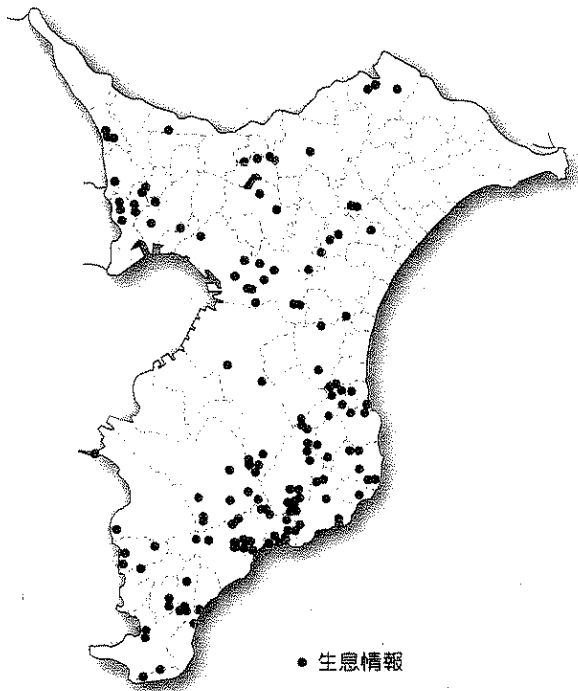
一口コメント

北海道や神奈川県状況から考えると、このまま放置すれば、被害が激化するの確実です。計画的な捕獲が早急に望めます。

ハクビシン

Paguma larvata
食肉目 ジャコウネコ科

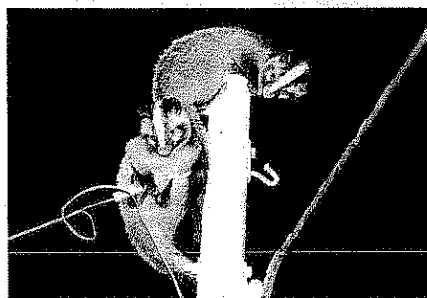
対策の緊急度 ▶



ハクビシンの千葉県での分布状況
千葉県では1987年に大原町で初めて死
体が確認されました。現在では県内広
くに分布しています。落合（1998）に
その後の資料を追加。



自動撮影カメラで撮影されたハクビシン（市原市）
撮影：田辺浩明



電信柱に登ったハクビシン（山武町）
撮影：小林敏二
木登りが得意で、人
里ではこういった光
景が見られます。

2003年に流行した
新型肺炎（SARS）
とハクビシンの関係
を報じる新聞記事
SARSの感染源である
可能性が指摘され、
ハクビシンは一躍有
名になりました。日
本に生息するハクビ
シンからは、この病
気のウイルスは確認
されていません。



◆中国南東部、台湾、東南アジアなどに生息。尾が長く、顔の中央の白線が目立ちます。体重3～5kg、頭胴長48～60cm、尾長38～43cm。雑食性で、昆虫類、陸生貝類、小型の脊椎動物、果実などを食べます。春～秋に2～4頭の子を産みます。

◆日本では戦時中に軍用の毛皮をとるために飼育され、それが放逐・逃走して野生化したとされています。現在では本州、四国などの広い範囲に分布しています。千葉県では1980年代に茨城県から分布拡大し、県内広くに生息するようになりました。一部ではペットの放逐・逃走があった可能性もあります。

◆果実や畑作物を食害します。千葉県では県南部を中心に農作物への食害が増加しています。アライグマと同じように人家の屋根裏に入り込んで繁殖するため、生活被害も生じます。在来の自然に対しては、捕食の影響や、タヌキ、キツネ、アナグマ等の在来の中型雑食獣との競合が予測されます。

◆千葉県では小規模な捕獲が行われているだけで、分布・生息数が拡大・増加中です。

一口コメント

被害状況等に応じて、地域的に生息を抑制することが必要です。

出典：千葉県立中央博物館（2004）千葉の外来哺乳類